

【田原市博物館 テーマ展】

令和5年8月5日(土)～10月1日(日)

## 生動する山水画

展示室 特別展示室

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
市指	わたなべかざん 渡辺崋山	しきさんすいがきつ 四季山水画冊	文化8(1811)年	紙本墨画淡彩	画帖	
	渡辺崋山	せつさんこういんず 雪山高隠図	天保8(1837)年	絹本着色	掛幅	
	渡辺崋山	こうし かんぼくず 高士観瀑図	天保9(1838)年	絹本着色	掛幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	さんすいず 山水図	天保14(1843)年	紙本墨画	掛幅	
	椿 椿山	しゅうこうさんすいず 秋江山水図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅	
	たに ぶんちよう 谷 文晁	りはくかんぼくず 李白観瀑図	江戸時代 文化年間	紙本墨画	掛幅	
	ふくだはんこう 福田半香 はぎはらしゅうがん 萩原秋巖	こうとうひつずいちよう 興到筆随帖	天保13(1842)年	紙本淡彩	画帖	
	さくらませいかい 桜間青厓	せいりょくさんすい ず せんめん 青緑山水図扇面	天保7(1836)年	紙本淡彩	扇面	
	桜間青厓	さんすいずせんめん 山水図扇面	江戸時代後期	紙本淡彩	扇面	個人蔵
	桜間青厓	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅	
	桜間青厓	せつけいさんすいず 雪景山水図	弘化元(1844)年	絹本着色	掛幅	
	いのうえちくいつ 井上竹逸	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	元治元(1864)年	紙本墨画淡彩	掛幅	
	井上竹逸	ばんりちようこうずかん 万里長江図巻	明治11(1878)年	紙本墨画	卷子	
重美	おかだはんこう 岡田半江	さんすい ず 山水図	享和3(1803)年	紙本淡彩	掛幅	岡田米山人賛
	まつばやしけいげつ 松林桂月	ゆうざん こそん 幽山孤村	大正13(1924)年	紙本墨画	屏風	
	松林桂月	し き さんすい 四季山水	昭和11(1936)年	絹本墨画淡彩	掛幅	
	しら いえんがん 白井烟嵐	しゅうけいさんすいず 秋景山水図	昭和13(1938)年	絹本着色	掛幅	
	白井烟嵐	さんすいず 山水図	昭和38(1963)年	絹本着色	掛幅	

重美＝重要美術品 市指＝田原市指定文化財 表記のないものは全て当館所蔵

田原市博物館

## <作者紹介>

### 渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びました。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

### 椿 椿山 享和元(1801)年～嘉永7(1854)年

はじめ金子金陵に師事しました。金陵が亡くなった後、同じく金陵の門下であった渡辺華山の弟子になります。蛭社の獄で華山が逮捕された際は、その救済に奔走しました。華山没後は、華山の家族を献身的に支えました。花鳥画を得意とし、輪郭線を描かない方法で花卉図などを多く制作しました。

### 谷 文晁 宝暦13(1763)年～天保11(1840)年

田安家家臣で詩人でもあった谷麓谷の子として江戸に生まれました。はじめ加藤文麗、渡辺玄対に絵を学びました。寛政4(1792)年、田安家出身の白河藩主松平定信の近習となり、『集古十種』などを編纂しました。当時の画壇の重鎮として活躍し、渡辺華山をはじめ多くの弟子を輩出しました。

### 福田半香 文化元(1804)年～元治元(1864)年

遠江国見附(静岡県磐田市)で生まれました。はじめ掛川藩の絵師村松以弘、続いて勾田台嶺に絵を学びました。天保4(1833)年、田原に帰郷中の渡辺華山を訪ね、その後華山の弟子になります。半香は花鳥画も描きましたが、山水画を得意とし、晩年になると水墨の山水画を描くようになりました。

### 萩原秋巖 享和3(1803)年～明治10(1877)年

江戸時代後期の書家です。書は幕末の三筆の一人である巻菱湖に学びました。主な著書に『書法蒼粹』、『十体源流』などがあります。

### 桜間青厓 天明6(1786)年～嘉永4(1851)年

岡崎藩主本田家に仕えた岡崎藩士です。渡辺華山・椿椿山と交友していました。青厓が描く山水画は「山水は我青厓に及ばず」と華山に言われるほど得意でした。蛭社の獄で華山が捕らえられた際に、華山の釈放に尽力した一人です。

### 井上竹逸 文化11(1814)年～明治19(1886)年

幕臣梶川氏に仕える武士の家に生まれました。竹逸は17歳から華山の家を出入りし、弟子となります。天保10(1839)年～12(1841)年にかけて長崎奉行田口喜行の家臣として長崎に滞在した際に、砲術を高島秋帆に学びました。「万里長江図巻」(当館蔵)など山水画を得意としていました。

### 岡田半江 天明2(1782)年～弘化3(1846)年

岡田米山人の長男として大坂に生まれました。幼少の時から父より絵を習いました。父と同じく藤堂藩の下役として仕えました。父の没後、家業の米屋を継ぎましたが、文人画家としても活動を続けました。田能村竹田や頼山陽、篠崎小竹など交友しました。潤いのある豊かな作品を生み出しました。

### 松林桂月 明治9(1876)年～昭和38(1963)年

山口県萩市に生まれました。明治26(1893)年に上京し、翌年、椿椿山を師とする野口幽谷の弟子になります。日本美術協会展や文展に出品し続け、南画界の重鎮と言われます。昭和19(1944)年、優秀な美術家へ与えられる帝室技芸員に任命され、昭和33(1958)年には文化勲章を受けました。

### 白井烟嵩 明治27(1894)年～昭和51(1976)年

豊橋市花田町に生まれました。16歳より従兄の白井永川に南画を学びます。松林桂月に師事し、大正9(1920)年、第2回帝展初入選以後、帝展や新文展に出品し、戦後は日展へ出品しました。昭和49(1974)年、渡辺華山顕彰の功績が認められ、田原町町政功労者として表彰されました。